

1、三蔵法師展へ行ってきました

国立博物館の『天竺へ～三蔵法師 3万キロの旅』を拝観してきました。まず会場入口の三蔵法師の像が素晴らしい。過去に見た画像に比べ、塑像となって表情が一段と鮮やか。

展示の主体は玄奘三蔵の取経の絵巻物だが、鎌倉時代の物とは思えぬ色の鮮やかさ、さらに重要部分を拡大して示して理解が深まる。会場は若者よりも年配者が多く、変体仮名をすらすらと音読する人もいる。三蔵ゆかりの場所が、現代の写真でも掲示されていて、かつて私が訪問した **興教寺** (cf下記)や大慈恩寺、シルクロードなどが懐かしい。

2、興教寺の思い出

昭和61(1986)年の夏、私は中国西安の音楽学院と外国語学院に留学中であった。

8月13日、教室へ行くと文法の田(ティエ)先生が「気温が40℃を越えてるから授業は中止すべきだ」と騒いでいた。当時の中国の教室にクーラーがあるはずもなく、午後は打ち切って学院バスで西安郊外への見学旅行するという事となる。

学院側の考えでは「授業を散策に変更」だが、留学生には「草堂寺へ行く」と告げられただけ。一時間半かかって到着しても何の説明もなかった。

それでも日本人たちは周囲の文字を見て「ここは法華経の漢訳者、クマラジュウ三蔵の墓所である」ことを理解出来たが、西洋人同級生たちは訳が判らず不満である。しかし、事務官たちは「次は香積寺」といって車を発信させた。その途中で珍事が発生する。

西安南郊はブドウの名産地。事務官が「ちょっと買い物」と下車してなかなか帰らず、「見て来る」と出掛けた運転手も帰ってこない。中国車にカークーラーはなく、窓からの外気で涼をとっていたのだから、一時間もバスの中いたら蒸焼きになってしまう。みんなで車を降りて、畑に向かって「オーイオーイ」と呼んでやっと二人が戻って来たが、「御免なさい」とは言わない。それどころか「時間不足なので、予定変更して興教寺に寄って帰校します」という。

こんなことから突然に玄奘三蔵法師の墓所の **興教寺** に来た。大木が立ち並ぶ静かな所だが、やはり事務官からは何の説明もなく、寺の僧侶も居ないらしい。西洋人たちは私に説明を求めるが私だってクモラと玄奘の二人の三蔵や孫悟空を説明する語学力はない。

みんなが不満のまま発車。途中で西北中国特有の土の住宅(ヤオトン)が見えたので「見学させて！」と交渉したが「プウノン(出来ません)」と冷たい返事。さらに要求すると運転手までが「ドンヌアン・シャーリアン(冬暖かく夏すずしいだけ見ても仕様がなない!)」と怒鳴るので留学生一同は怒ってしまった。「見学地の説明はせず、自分たちは勝手にブドウ買いをして、我々の要求は認めない! もうこんな車に乗りたくない!」

西安市南端のテレビ塔が見えたので全員が下車。公共バスで市内の高級ホテルへ行った。ここにはクーラーがあり美味しいものがある。学院のやり方に不満をぶつける乾杯・・・
昨今の中国高速鉄道の関係者の対応が重なって思われる。

3、避暑地・大型郊外店・老人と若者

各地に、車で出掛ける「大型郊外店」があることは承知していたが、奈良東部の郊外店へ初めて出掛け、いささか様子が違うことに気が付いた。

拙宅からの距離は約10.5km 公共交通機関がないので、通常では出掛けて行く所ではないが、近くで入手できなかった補修材を探しに車でやって来た。

古墳群地帯のような広い所に大駐車場があり、中央の建物が店舗。様々なマーケット・ショップ、学習施設、若者向けの遊び場までが備えられていて食堂やレストランも多く、恐らく世界各地の御馳走を並んでいるのであろう。

いや、これだけなら何でもない。しかし少し様子が違う。所々にある広場(スクエア)の一つで催し物が行われており、丁度、一つが終わって客が散り始めても用意された椅子から立たずに悠然と座っている人が多い。ここは『老人保養地・有閑婦人の避暑地』ではなかろうかと気が付いた。買い物ではなく暑さ凌ぎと暇つぶしに来ているのであろう。

昨今、節電要請が出て暑中の過ごし方は容易ではないが、ここでは無料で避暑ができる。試食品が揃い催し物があり、追い出されずに休憩が出来る長椅子や喫煙室もある。バスの便もあるので、多少の小遣いがあれば、一日中のんびりと出来る別天地がここにある。

これに比べると小売店の経営は大変だと思う。斑鳩でも文房具店、米屋・酒屋、名物の和菓子屋さん、洋菓子屋さん。理髪店と美容室。駅近くの飲み屋さんなど、頑張っておられる・・・しかし、商店の若者が親の跡を継ぐ意欲は如何であろうか？

新聞では「奈良の若者の県内就職率はワースト1」「女子の県内就職率は39%」とある。飛躍する話だが「わたしは老人ボランティア。生き甲斐があり、無料奉仕できる。でも、歴史は食べ物にはなりません。」と言う法隆寺の無料ガイドさんがおられる。

近代的な店で消暑する人、生き甲斐に励む人それぞれだが、若者が郷土を愛して活動する話をもっと聞きたい。

各種施設の検討も必要だろう。単に「ロマンを売る」「教養を高める」「歴史を守る」だけでは地区の活性化は難しいと思われる。上から下へだけでなく、老人が生き生きとできる方策が必要。春の選挙中、箱物行政の非難があったが、施設は大切。問題は活用法と活用率であり、老人が活発なら若者も安心して働けるとと思われる。

4、子ツバメ転落

駐車場に沿って立つ家の軒端から、子ツバメが試験飛行に失敗して道路へ墜落。車が入りし通行人も多い道端なので、親ツバメは「キイキイ」鳴きながら必死の応援をする。丁度、やってきた犬の散歩のご婦人には人間の私が説明。子ツバメは何度か試行して草むらへ移動できた。ここまで見届けてわたしも車を出す。夕方見ると、子ツバメは無事に巣へ戻って首をのぞかせており、親ツバメは近くの電線に留まって羽繕いをしておりました。でも、遠い南の国まで飛翔する力はこれから養われるのでしょうか。もう、親は子ツバメに餌を与えることはしないようです。厳しいですね。

5、柿渋液のこと

柿渋といえば、母も祖母も飴色をした茶器の格納箱や携帯籠を愛用していたものである。今回、ふとしたことから、京都の柿渋製造者の方のお話しを伺うことができた。

柿渋は江戸の昔から塗料・染料として貴重な存在だったが、近ごろはそれに加えて様々な用途が開発されている。A食品添加物＝柿タンニンを利用して酒・醤油・調味料など液状食品を清澄する。B健康補助食品＝顆粒になった柿渋でポリフェノールを摂取。含有量は赤ワインの約10倍。C消臭効果・シックハウス対策。D快適な夏応援＝夏ふとんや敷布を柿渋で染めて使用すると、汗や体温を放出して冷涼感が増加する。特に靴下を柿渋で薄く染めると蒸れず匂わず清潔感が増す、洗濯もラクという。

柿渋は伝統技法と近代的処理によって天王柿から製造され、国内の名産地として岐阜・京都・広島があげられる。いずれの産地のものも、昔のような原液からの使用よりも顆粒で使うのが良い。水を加えるだけで元の柿渋液となり、濃淡が好みで調節できる。また従来の飴色のほかに淡い色もあり、カラフルに加工出来る。

一貫張りの一貫とは江戸初期の漆工・飛来一閑のことではないか？ 戦乱の中国(明)から日本へ逃れて来て『一閑張元祖』となった。一貫と一閑があり、不明な面もある。

問い合わせ：三樹嘉七商店 619-0217 京都府木津川市木津町宮の内9

TEL;0774-72-0216 kaki@mimasu.net <http://www.mimasu.net/>

6、珍事か怪火か？

前号で法隆寺の飛び火を紹介したが、今度は西の京で怪事件である。「田道間守」の墓でも知られる『垂仁天皇陵』(全長227mの前方後円墳)で火事があったという。宮内庁管理で立入は禁止、周囲は濠で巡らされて簡単には侵入できないから、人が入っての焚き火などは考えられないという。そんな中での原因不明の発火？ 自然現象がありえるか？ こっそりと忍び込むにはどうするのか？ 泳いで入れるか？ 火とは何？ 怪火か？

町のド真ん中に御陵があって、千何百年も守られて来た不思議が奈良にはある。

7、新聞の読者文芸から

初蟬や 宇陀も奥なる海神社

蚊を打って 太子の寺に俺一人

牛蛙 聞きつつ朝の反廻り

三輪山に一礼二拝夏祓

衛士留守の軒の風鈴鳴るばかり

コロomboもアルツハイマーとはショック

千の風 乗らず木陰で昼寝する

五行詩

炎天下に白杖ついたひと

駅へ降りられた

「市役所はどちらですか」

「私も丁度行きます」

咄嗟にでた

思いがけない事は

突然に

やって来た

背(せ)に

石つぶてを受けるように

白雲牽いて

飛行機が行く

今、行きたいのは

シベリウスの

静かに深い森

8、太子町を尋ねて

斑鳩の南方流れる『大和川』 その昔、大和川は物流の大動脈であり、奈良北部を富雄川・秋篠川・飛鳥川などの諸流を集めながら西へ流れ、今の大阪城の北で淀川と合流して難波津へ注ぎ込んでいた。

諸国・大陸の文化・物産は大和川を経て大和朝廷に運ばれ、聖徳太子の活動もこれによる。太子の足跡もこれに沿ったところにあり、仮に東端を斑鳩法隆寺とすると仮西端に四天王寺がある。その間に私の知らなかった太子ゆかりの地がいくつかあるらしい。これを紹介する本も見つからないが、地図の上から次の四地点を発見した。これを少しずつ訪問してみようと考えている。

- ① 上の太子＝大阪南河内郡太子町：叡福寺：聖徳太子御廟所 小野妹子の墓
- ② 中の太子＝羽曳野市野々上野中寺(やんちゅうじ)
- ③ 下の太子＝八尾市太子堂大聖勝軍寺
- ④ 兵庫県の太子町＝

いずれも詳細は不明であり、訪問後に報告したい。大和川は川の清澄度ワースト5と言われるので注意が必要。一字違いの大井川は清澄度ベスト10にあるそう。

